

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇

病虫害発生予察注意報第3号

- 1 作物名 **ネギ**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **8月～11月**
- 5 発生量 **平年比多い**
- 6 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬に山城地域の一部のネギ栽培ほ場で発生を認めている。

表1 シロイチモジヨトウによるネギ被害株率

	ほ場①	ほ場②	ほ場③	平均
			%	%
京都市伏見区淀 (交信かく乱剤設置地域)	0.0	0.0	4.0	1.3
久御山町	16.0	16.0	32.0	21.3
八幡市	28.0	16.0	12.0	18.7

*8月1日、各ほ場25株調査結果

- (2) 京田辺市におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(7月第1半旬～第6半旬の合計値)は36.8頭で、平年(12.1頭)を上回っている(+) (図1)。

本年の発生量、発生消長は、多発生となった平成29年に似ており、今後の多発生が予想される。

- (3) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量は日本海側で平年並または少なく、太平洋側で平年並と予想されている。

7 防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下し、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。

- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外のマメ類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) 薬剤散布は表2を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。

なお、病害虫防除所で平成29年に実施した薬剤殺虫効果試験の結果は、平成29年9月21日付け「病害虫発生予察注意報第4号」を参照のこと。

- (6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真1 シロイチモジヨトウの幼虫



写真2 シロイチモジヨトウの被害株

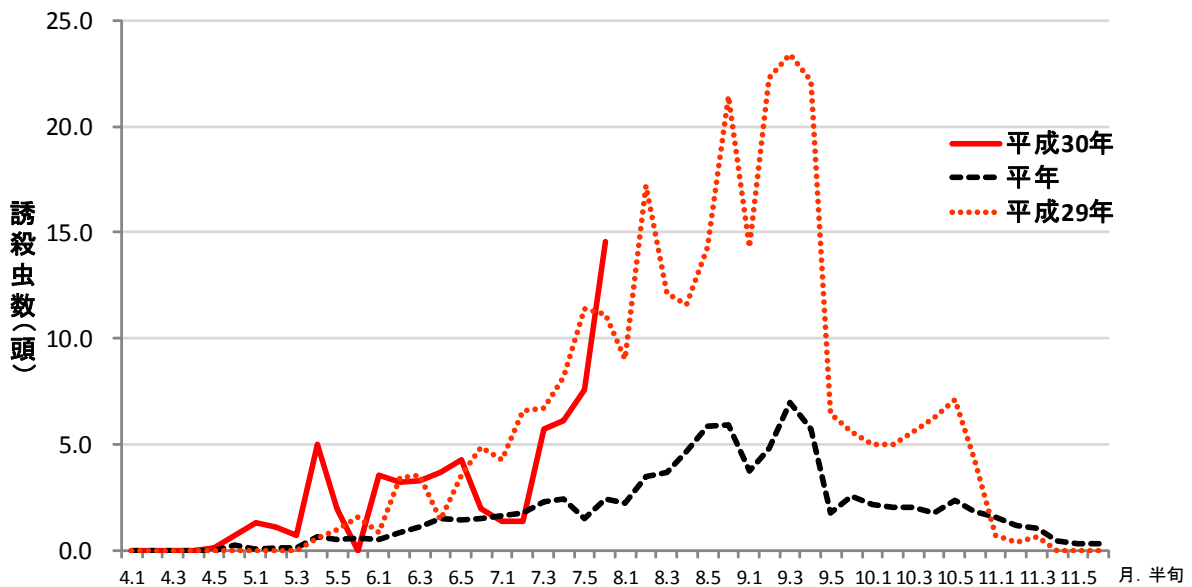


図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺虫数(京田辺市)

表2「ネギ」でシロイチモジヨトウに登録のある主な農薬（平成30年7月30日現在）

IRACコード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考	
1A	ランネート45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内		
	ラービン水和剤75	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内		
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内		
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	トレボンEW	1,000倍						
4A	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍、 0.5L/㎡	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへの 灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、 生育期の株元灌注は1回以内、散布 及び定植後の株元散布は合計2回以内)		
	(28) アベイル粒剤	40g/ セルトレイ、ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	アセチアクト(モスビラン:IRACコード4A) 3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、植付時の土壌混和及び定植当日ま での株元散布は合計1回以内) シアンコリアロール(ペネビアOD:IRACコード 28)		
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍 0.5L/㎡	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内(但し、定植時までの処理は1回 以内、定植後の処理は3回以内) クロントラコリアロール(フレバソン:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内) ジノテフラン(スタークル:IRACコード4A) 4回以内(但し、は種時の土壌混和、育苗 トレイへの灌注及び定植時の株元散布は 合計1回以内、生育期の株元灌注は1回 以内、散布及び定植後の株元散布は合 計2回以内)		
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内		
6	アファーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	(15) アファームエクセラ顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内 イマクチン安息香酸塩(アファーム:IRACコード 6) 3回以内 ルフェスロン(マッチ:IRACコード15) 3回以内		
	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	(28) ポリアムガンダム顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内 イマクチン安息香酸塩(アファーム:IRACコード 6) 3回以内 クロントラコリアロール(フレバソン:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内)		
11A	エコマスターBT	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—		
	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で 登録	
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で 登録	
	フローバックDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—		
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
		カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
		マッチ乳剤	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内	
ノーモルト乳剤		2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
18	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内		
	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	(22B) アクセルキングフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	トルフェンビラト(ハチハチ:IRACコード21 A) 2回 メタフルゾン(アクセル:IRACコード22B) 2回		
22A	トルネードフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	トルネードエースDF	1,000倍						
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内		
28	フレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)		
	ペネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (但し、定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)		
	ベリマークSC	400倍	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	4回以内		
		2,000倍、 株元灌注(0.5L/㎡)	収穫7日前まで	1回	株元灌注	4回以内 (但し、定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)		
フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内			
UN**	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内		
交信かく乱剤 ***	コンフェューザーV	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒 にディスペンサーを巻き付け固定しほ場に設置する	野菜類で 登録		
	ヨトウコン-S	100～500本/10a (露地)	シロイチモジヨトウの発生初 期～終期	—	作物上に支柱等を用いて固定する 使用量のめやす ・小面積(1～5ha):150～200本 ・大面積(5ha以上):100～150本	シロイチモ ジヨトウが加 害する農 作物		

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

**作用機構が不明あるいは不明確な薬剤

***IRACの分類に該当しないもの